



特定医療法人社団

# 鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス  
<http://www.goodream.co.jp/hoyukai/>

第62号

発行:2011年6月15日  
発行責任者:  
特定医療法人社団 鵬友会  
事務局長 池島 守



## 院長就任のご挨拶

～横浜ほうゆう病院が変わります～

横浜ほうゆう病院 院長 日野 博昭

平成23年5月1日付けで横浜ほうゆう病院の第3代院長に就任した日野博昭と申します。ニュースレターへの登場は2回目ですが、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は平成3年山形大学医学部を卒業し、横浜市立大病院の研修医となりました。当時はローテーション研修で、最初に研修先に選んだ精神科の教授が着任されたばかりの小阪先生でした。その後、精神医学の大学院へ進み、豊橋の福祉村病院、都立精神医学総合研究所などで神経病理学研究を行い、学位を取得しました。卒後は横浜舞岡病院、横浜市大精神医学教室で、認知症を含む臨床精神医学や神経病理学研究に研鑽してまいりました。丁度、私が医局長の時、定年を前に小阪先生が退官されることとなり、以後の教授選考などで対応に追われたことが今でも思い出されます。当院へは平成15年より非常勤で勤務してきましたが、元副院長の角田先生があしたばメンタルクリニックへ異動される際に「是非とも」と後任をお願いされ、平成16年に副院長へ着任しました。そして7年間の勤務の後、小阪先生のご推薦により今回院長に就任した次第です。

さて現在、横浜ほうゆう病院は以下の3施設の改築を行っています。

1. デイケア棟の新設
2. 外来部門の改築・拡張
3. 東3病棟の増床

1. のデイケア棟ですが、病院横に新たにデイケア専門棟を新設します。以前のデイケア室よりは広くなる予定で、これまで開いていなかった土曜日にも通所ができるようになります。広い部屋は講演会などにも使用することを考えています。2. の「外来部門」は病院の「顔」ともいえる外向きには大変

重要なところですが、当院は開院当初から外来診療はほとんど行わず、入院時診療のみに使用していました。徐々に外来患者も増えていきましたが、小阪前院長の就任後は大幅に増加し、時には待合に座る場所もないほど患者さんご家族であふれかえることもありました。また、外来診察医が増えたため診察ブースも1室を2室に区切っただけでは足りず、今回デイケア移転で空いたスペースを利用して外来ブースを4室、処置室・面接室を各1室と増やし、さらに売店も併設する予定にしています。受診時の動線を考えて受付も移動し、地域医療連携室も気軽にお立ち寄りできるところに移ります。やっと「外来」らしい施設となり、患者さんのみならず、われわれ診療する側にとっても快適なスペースになると思います。3番目にあげた東3病棟の増床はこれまでデイルーム・食堂としていた1室を一般病室2室に変更し、各室4床計8床増やす計画です。開院時は207床でスタートし、今回は8床の増床とわずかではありますが、全体では215床となり、少しでも多くの患者さんを受け入れていきたいと考えております。

以上のように横浜ほうゆう病院は院長とともに、一部ですが、ハード面でも新しく変わります。しかし、初代藤澤浩四郎院長と第2代小阪憲司院長がこれまで示されてきた認知症医療に対する方針やその目標はしっかりと受け継ぎ、発展させていく所存です。

なお、外来改築中の診療は会議室を仕切り、臨時の診察室を設置して行います。狭い場所での診療となり、患者さんご家族には大変ご迷惑をおかけするものと思います。また、病棟の改修でもご不便をおかけしますが、ご理解のほどをよろしくお願いいたします。

# 横浜ほうゆう病院 鵬友会 研修レポート ～BSC研修～

## BSCとは？

バランス・スコア・カードのことで、マネジメントシステムとして開発（1990：ハーバードビジネススクール教授、ロバートキャプランなど）されたものです。

今年度、BSCを導入して5年目を迎え、新しい看護師長を迎えたこともあり、看護師長学習会として、BSCの抄読会を行いました。参加者は、看護師長のほか、認知症専門病院では重要な役割を担っている作業療法科長と主任、精神保健福祉士主任も参加しました。抄読会は「BSCの基本概念」「経営環境分析」「理念・ビジョン・戦略テーマの設定」「戦略マップの作成」「スコアカードの作成」について担当分野を参加者の意志で決め、計4回行いました。

BSCでは、経営環境分析（SWOT分析）が最も重要です。認知症の専門病院として取り組むべき課題の明確化では、他より優れているところ（強み）、内部の問題点（弱み）、社会情勢など追い風となるもの（機会）、向かい風となるもの（脅威）について話し合いました。すると、認知症専門病院として10年間の実績がある。患者・家族から信頼されている。高齢社会の中認知症患者のニーズが高い。スタッフの教育体系が未整備。意識にムラがある。などの意見が出ました。そこから、積極的攻勢として、認知症専門病院をアピール。差別化戦略として認知症専門看護師を誕生させる。弱点克服では、看護師のキャリアアップ。などの意見が出ました。また、戦略テーマの設定では、収益を上げる。高度な認知症看護の継続。などが上がり、この一部においてですが、戦略マップの作成からスコアカードの財務。患者満足。業務プロセス。学習と成長。の4つの視点を考えることができました。

この経緯を通して、拘束に関する考え方や個室使用のあり方、8床増床についてなど現実的な視点からも意見交換がされ、参加者の意思疎通、相互理解が深まりました。また、よく分かっていなかったことが分かった。BSCは深い。などの意見も聞かれ、縦・横だけでなく、上下からも広く深く思考していく大切さと大変さも実感し、課題は残りましたが、タコの足の話も出て笑いながら終わることができました。

看護部長 渡辺 眞利子



# デイケアOPEN!



【内観】



【外観：横浜ほうゆう病院2階から撮影】

## ☆7月1日始動☆

横浜ほうゆう病院内で行っていた重度認知症患者デイケア「サン・アリス」が遂に独立！来月1日のリニューアルオープンに向け、現在工事が進められています。きれいで広々とした空間を活かし、より充実した内容のサービスを展開していきます。新生「サン・アリス」に乞うご期待！！